

## 令和4年度第1回 千葉県がん教育推進協議会の書面開催に係わる質問・意見等について

### 議題1 令和3年度がん教育に係る外部講師派遣の実施状況について

委員名	委員御意見	意見に対する回答
五十嵐昭子委員	全体的に外部講師の利用が少ない。母数も入れるべきだと思います。	今後、資料作成にあたって、ご意見を参考にさせていただきます。
	その中でも、相談員と患者が1人ずつというのは問題だと思います。	外部講師の派遣は学校側の希望により行っているため、学校側のがん教育のねらい等が反映されています。今後も学校側の希望に添えるよう外部講師派遣を行ってまいります。
	以前から言っているように、講師養成のための千葉県独自の研修会をやるべきだと思います。eラーニングだけでは足りません。特に患者講師は練習も必要だと思います。ピアサポーター養成講座のようなきっちりした内容の養成講座を開催すべきです。患者団体としては協力は惜しみませんが、予算などは県として出していきたいです。	いただいた意見を参考にしながら今後の研修会の内容等について検討してまいります。
野田真由美委員	昨年の会議でも指摘させていただいたが、今回もがん経験者の派遣数は0と変わっていない。がんに関する正しい知識は、医療者が外部講師となるべきだと考えるが、がん体験やがん患者への対応については、がん体験者のリアルな声も意味があると思う。	外部講師の派遣は学校側の希望により行っているため、学校側のがん教育のねらい等が反映されています。今後も学校側の希望に添えるよう外部講師派遣を行ってまいります。
	特に、がん患者への対応というテーマについていえば、医療者が語れば支援する側の視点での話だけになることもあるのではと懸念する。支援をする側の視点も大切だが、当事者がどう思っているかも大切な視点だと考える。がん体験者が語れば、どのような対応が当事者としてはありがたいのかというリアルな声も届けられるので活用してチャレンジしてほしい。	引き続き、がん教育に係る外部講師派遣制度について、学校等に周知してまいります。その上で、どのような外部講師を活用するかは学校が判断するため、学校側の希望に添うよう講師派遣を行ってまいります。
細井尚人委員	R2度にいったん回数が減り、R3年度に再び増加したのは、オンライン授業が普及したと考えてよろしいでしょうか。	令和2年度は申し込みがあっても、コロナウイルス感染症の拡大化防止のために開催出来ない状況がありました。令和3年度はオンラインで実施した学校もあったことから、増加したのではないかと考えています。
佐藤弘之委員	ここ3年ほどは、コロナの関係で外部講師派遣ができない事もあったと思うので数字的に少ないと感じた。	御意見ありがとうございます。
	小学校に外部講師を派遣するのも良いと思うが、中学生と高校生向けにもう少し力を入れて各郡市町村とも連携などすると、もう少し依頼が増え派遣数も増えると思う。	引き続き、がん教育に係る外部講師派遣制度について保健体育課と協力し、市町村等に周知してまいります。

### 教育庁からの回答

委員名	委員御意見	意見に対する回答
野田真由美委員	対面での授業が困難な環境が続いており、外部講師の派遣自体があまり増えていないと思われるが、外部講師は招聘せず学内でがん教育をしているという解釈で良いか教えてほしい。	学習指導要領に基づき、保健体育科を中心に学校の実情に応じて教育活動全体を通じて取り組んでいます。また、県教育委員会では、公立の中学校、高等学校のうち、毎年度3校程度をモデル校に選定し、外部講師を活用した「がん教育授業の実践研修会」を実施することで、生徒がよりよい生活習慣やがん検診の重要性等を理解する学習を継続的に進めているところです。
	以上から、昨年も申し上げたが、医療者とがん体験者、双方の外部講師の活用を進めていただきたいと思うが、何がネックなのか学校側のご意見がわかると良いと思う。	令和4年度文部科学省のがん教育実施状況調査においては、教師による指導を行ったため、また、指導時間の確保が難しいためとの理由から外部講師等の活用を行わなかったとの意見が多く見られました。現在、千葉県教育委員会のHPには、文部科学省作成の教材（スライド）「がん患者の思い」をリンクする等、学習に使用できるようにしています。

議題2 令和3年度がん教育に係る外部講師のための研修会開催結果について

委員名	委員御意見	意見に対する回答
五十嵐昭子委員	教員の参加を義務づけた講義や意見交換の場を設けるべきと思います。まだまだどうしていいかわからない状況だと思います。	教員の参加を義務づけた講義や意見交換の場を設けるのは困難ですが、今後もスムーズな外部講師派遣が行えるよう学校側と協力してまいります。
野田真由美委員	204回の再生数で、アンケート回答数が17～18人ということでは、実際にどれくらいの人数が参加したのかよくわからない。助友先生も三好さんもがん教育の分野では、日本のトップランナーと言われている人たちなので、もったいないというのが感想。今後がん教育に関わる人にはまずこの研修会の動画を見ることを課してもよいのではと考える。	今後の研修会の企画にあたって参考とさせていただきます。
佐藤弘之委員	外部講師のための、研修開催方法を少し変えたりするともう少し参加人数や開催数が増えると思う。	研修会のアンケートにて取り扱ってほしい内容を記載していただいているので、それらを参考に研修方法等含め検討してまいります。
若梅貴世江委員	実際に県内で講師経験のある方（各職種）から、講演した際の状況や課題等を聞けるのも良いかと思いました。	今後の研修会の内容の参考にさせていただきます。

教育庁からの回答

委員名	委員御意見	意見に対する回答
五十嵐昭子委員	参加者が少なく、まだまだ関心が低いと言わざるを得ません。がん教育が義務化されたというのに、どのように実際の講義を行っているのか、不安が残ります。	学習指導要領に基づき、保健体育科を中心に学校の実情に応じて教育活動全体を通じて取り組んでいます。また、県教育委員会では、公立の中学校、高等学校のうち、毎年度3校程度をモデル校に選定し、外部講師を活用した「がん教育授業の実践研修会」を実施することで、生徒がよりよい生活習慣やがん検診の重要性等を理解する学習を継続的に進めているところです。
野田真由美委員	医療者とがん体験者をセットで派遣するような具体的なモデル授業のひな型を作りトライしてもらって学校で模擬授業を行い、見学してもらうなども考えていく必要があるのではないかと。	県教育委員会では、がん教育において外部講師の活用を進めるとともに、文部科学省の指導参考資料を活用した、学習指導案の参考となる中学校・高等学校向けの「『がん教育プログラム』モジュール活用例」を作成する等により、学校における「がん教育」の充実に努めています。今後は参集による研修の検討とともに、外部講師活用を推進していきます。また、これまで新型コロナウイルス感染症の影響のため、控えていた授業実践校の公開授業を実施しています。加えて、令和5年度は外部講師の実践授業の様子を実践授業後にWeb配信することを計画中です。
細井尚人委員	アンケートの内容にもあったように研修で実際の授業が見られるとよいと思いました。	新型コロナウイルス感染症の影響もあり、ここ数年は参集しての研修を行えませんでした。がん教育の取扱いが現在の学習指導要領になってからまだ数年ということもあり、今後は参集による研修の検討とともに、外部講師活用を推進していきます。また、これまで新型コロナウイルス感染症の影響のため、控えていた授業実践校の公開授業を実施しています。加えて、令和5年度は外部講師の実践授業の様子を実践授業後にWeb配信することを計画中です。

議題3 がん教育実施結果アンケート（外部講師向け）について

委員名	委員御意見	意見に対する回答
五十嵐昭子委員	実際にやってみて、改善点を考えていくべきと思う。	「がん教育実施結果アンケート（外部講師向け）」を実施し、がん教育推進協議会にて結果の共有を図ろうと考えております。
野田真由美委員	県の作っている外部講師派遣可能機関の一覧表は、学校側が検討、依頼をするうえで利用されている様子がわかった。この一覧があることで、講師依頼や打合せなどがスムーズにできたという意見も多くみられ、役立つ情報源となっていることが確認できて良かったと思う。	御意見ありがとうございます。
	がんは早期発見で治る、生活習慣病というイメージが強くなっているような感想もあり、体験者としては、間違いではないけれど、そう思い込んでほしくないという思いはある。一方で、がん患者への対応に悩んでいた児童や生徒の中には、寄り添うことや自分にもできることがあると感じたなど、がん体験者が周りの人に知ってほしいと思うことが伝わっている講義もあり、医療者の職種や、話し手によって、児童・生徒に届くもの、印象に残るものが異なると感じた。	御意見ありがとうございます。参考にさせていただきます。
	外部講師に医療者を求めるのは当然だと思うので、プラスアルファとしてがん体験者の声もという希望が無い理由がわかるような質問も今後アンケートに加えてみると良いと思う。	がん経験者の外部講師派遣について、ご意見を参考にさせていただきます。

その他の御意見

委員名	委員御意見	意見に対する回答
横手幸太郎委員	コロナ前の研修会における聴衆の数とR3-R4年に実施したオンデマンド方式へのアクセス数を比較すると視聴者は増えているのか？減っているのか？	R3-4年に実施したオンデマンド方式が今回、初めてとなりますので、今後、研修を実施した際に参加者の増減を注視してまいります。
五十嵐昭子委員	もう少し余裕を持って日程を決めてほしい。1年に1回の会議で何かを勧めることは不可能です。「がん教育推進協議会」を立ちあげたときの説明では、がん対策審議会の枠にとらわれずにやれる、ということでしたが、結局あまり変わっていません。現場の先生たちも実際にやっているところの人たちと意見交換をしたらどう思います。 ワーキンググループを立ちあげて、もう少し年間計画を立てて実践していただきたいと思います。	御意見ありがとうございます。 今後の開催にあたり、参考にさせていただきます。
野田真由美委員	会議が開催できなかったことは、本年度の反省点として共有していく必要があると考えます。委員のみなさんはみなお忙しいので、日程調整に時間がかかることは想定できることだったと思います。年度末、書面会議、時間のない中で資料の準備も大変だったことは推察しますし、ご担当者を労う気持ちはあります。 しかしながら、資料提示から1日で意見出しというのは、あまりにも酷です。年に1回しかない貴重な場です。今後は、早くから日程調整をしていただくようお願いいたします。また、資料はできればプリントしたものを早めに送付いただきたいです。現地開催であれば当然準備いただく紙媒体の資料をオンラインでは省略されることが増え、付箋やメモ書きをしながら繰り返し資料を読み込むために、自宅の家庭用プリンタで大量の印刷をする負担感を考慮いただきたく思います。	御意見ありがとうございます。 今後の開催にあたり、参考にさせていただきます。
細井尚人委員	千葉県医師会でも今年度より学校健康教育への学校医等派遣事業助成制度という新規事業を開始しました。今年度は2地区の活用がありました。	情報提供いただきありがとうございます。
若梅貴世江委員	学校独自で外部講師を招きがん教育を行っているところもあると思います。民間の保険会社の方も実績が増えてきているようなので、民間団体や民間会社等とも連携を深め多面的にがん教育が行われると良いと思います。まずはその情報収集と情報提供をお願いできればと感じました。	今後のがん教育に係る外部講師派遣制度について参考とさせていただきます。